

第1回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時	平成28年9月29日(木) 13時30分～15時15分
開催場所	浦河町役場 2階 大会議室
出席委員	19名(早坂誠会長、小林司会長職務代理者、武田宗務委員、神原大輔委員、高村祐太郎委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、濱谷雅樹委員、新保雄司委員、富永孝幸委員、木内稔委員、上田正則委員、上新雅人委員、小林孝範委員、津澤静子委員、小林美代子委員、村下知宏委員、杉山綾子委員、野上由佳委員)
欠席委員	5名(菅正輝委員、遠山寛委員、土谷進委員、永田善美委員、三浦敦子委員)
浦河町出席者	5名(池田町長、山根副町長、柳谷企画課長、葛西企画課主幹、荒木企画課主査)

1. 開 会

2. 町長あいさつ

地方が抱えている、少子高齢化という大きな課題。浦河町も一番人口が多かった昭和35年から55年かけて、約1万人減少。以前は、人口の減少の要因は社会減だったが、ここ10年余りは、社会減に加えて、死亡の方が出生を上回る自然減とのダブルパンチという状況にある。皆さんのご意見をいただいて、しっかりとした計画を作りたい。

悪い話ばかりではなく、浦河と様似の夏いちごの生産は日本一となっており、ふるさと納税では、全国で実施している1765の自治体の中で、昨年92位という、非常に良い成績。これも、生産者の皆さんの、頑張りがあってのこと。浦河町の農産、水産物には、非常に大きな魅力があることを改めて感じた。さらに、夏いちごについては、道内外問わず、新規就農してくれる方も多く、漁業も、新規に就漁する方が増えている。今年度から、浦河にU・Iターンをする方向への補助金制度を設け、その利用者も、予想を上回る嬉しい状況。

困難な状況ではあるが、知恵を絞って、まちづくりに取り組んで行けば、日本創成会議で示されたような消滅自治体となることなく、浦河町にも希望がある。ぜひとも皆さんの力を貸してほしい。

3. 辞令交付 (出席委員19名に対し町長より交付)

4. 委員・事務局紹介 (出席委員各自、自己紹介)

5. 会長、会長職務代理者の選任 (指名により承認)

6. 資料説明 (事務局より説明)

資料1：浦河町総合計画の策定について

資料2：浦河町総合計画策定スケジュール

資料3：浦河町総合計画後期5ヵ年基本計画の事業評価

7. 意見交換

【会 長】 今日初めてで審議に至るのは難しいと思う。皆さんが携わっている職種や団体の立場から、意見を出していただく形式で進めたい。

【代理者】 商工業ということで、人口の減少、少子高齢化をかなり実感。商工業者も跡取りがいないため減っているのが現状。我々の努力がいたらない点もあると思うが、消費者が町外に買い物へ出かけることが増えている。人が減っている、担い手がいない、ものを買う人が流出しているという3点が問題。

【A委員】 若い人たちが中々戻って来てないという現状を実感。建設業に携わる若い人たちも段々少なくなってきたので、改善していきたい。

【B委員】 農業従事者数が平成17年の約1,000人から現在約600人に減っている。この10年で4割も減っていることは、わかっていながらも改めて、数字で見ると、非常に難しい実情がある。夏いちごに関しては、確かに新規就農で増えてきているが、軽種馬も含めて、他の農業者は高齢化が深刻。

他の職種も同じだが、農業、特に軽種馬は後を継がせたくないと考えているところも多いので、今後さらに減ると思う。スタンドやスーパーも、高齢化等での自然減もあり、販売高は徐々に減少傾向。そういった面で、人口の維持等について、産業育成の中で、どのように改善していけるのかというところを、この審議会の中でも考えていきたい。

【C委員】 軽種馬だが、皆さんが言うとおりの、後継者不足は深刻。近所の牧場からも「やめるので、土地を借りてくれないか」という声を随分聞くが、家族経営なので、とてもまかないきれない。土地を拡大したくても道路があるため放牧地が広くならず使いにくい。

個人的には、親の目線として、町内で外食するときに、子ども連れでも行けるお店を知りたい。

【D委員】 軽種馬生産をしているが、人手不足はかなり深刻。軽種馬は少し値段が上がってきていて、売れ残るといことがあまりないため、生産頭数を増やしたいが担い手がいない。牧場廃業により、とびとびで土地が余ってしまっているが、土地活用がうまくできないので、大きな放牧地が確保できない。

他町の大きな牧場でも、人が足りていないから、小さい牧場では足りていないのは当たり前かと思う。馬は機械化できないので、どうしても人手が必要。

妻は札幌の出身で、札幌で子どもを産む場合はほとんど値段がかからないと聞いている。具体的な値段はわからないが、そういった面も改善できればと思う。浦河で出産すると経費が高くなるというイメージがつくと、それだけでディスアドバンテージになる。

【E委員】 昆布漁では、手伝ってもらう人も減っている。雇いたくても人がいなくて大変だし、子どもに継承させていくのも大変で、その代で終わってしまう。先日の台風でも、浜が取られて酷い状態。

【F委員】 林業も、他の委員の皆さんが話しているように、やはり後継者不足、若年労働者が不足していることが、一番の問題。一昨年、林野庁で監修した「WOOD JOB!」という映画の際は、かなり反響があったが、体験的に来ると、やはりキツイということで、就業まで至らない。

この30年で山の価値が、約半分から半分以下に価値が下がっている。国産材、道産材が高

価であるため、利用がうまくいっていない。近年は浦河町有林の利用促進ということで、公営住宅はじめ色々な面でPRしてもらっているが、まだ目に見えた効果はない。

林業で一番問題なのは、個人の資産でありながら、公益的機能（山地災害防止や水源海洋等）を担えるように「山主さんに頑張ってもらいたい」というが、そのための負担を強いられるのは山主さんで、大変な面もある。やはりその公共の補助の充実等、そういう声を大きくしていきたい。

【G委員】 私たちの事業は、融資が仕事のひとつになっており、主要な収入源のひとつになっている。融資先は、事業所が大きい比重を占めているが、ここ数年間、事業所も減り続け、影響を受けている。減り続けているのは、倒産だけではなくて、後継者がいないことも理由のひとつ。

また、新しい事業が起きるのは、さらに少ない。本来であれば、創業・企業する方に融資し、仕事にしていきたいが、それ自体が非常に少ないため、大きな問題。事業所が減り、働く場所がなくて若者が出ていくため、車や住宅のローンの需要が減っていくという悪循環が、大きな経営課題。

【H委員】 今年の4月に着任となったばかり。医療機関として町に貢献できるようなことがあればと思っている。

【I委員】 浦河町といえば軽種馬が基幹産業だが、最近は福祉の町としても有名になり、浦河町としてもPRしているのにもかかわらず、それに従事する方々が少ない。医療・介護・福祉関係は、ハローワークでも求人があり、有効求人倍率は高いが、ミスマッチをどのように改善していくかが、永遠のテーマだと思う。

やはり雇用の場を増やしていくのが一番だが、そのために、浦河町で事業しやすい環境の整備やPRをして、企業を誘致し、地元の方を雇用してもらおうよう、行政からの働きかけてほしい。

【J委員】 7月～8月の低気圧の影響で、北海道にこれまでありえなかった、一週間に台風が3度直撃し、自然の猛威を知らされた。東北の震災があってから、地震や津波に対して避難訓練や、治水が非常に大事だと思う。いくら河川管理者に費用がないからといって、あの位の雨で向別川が氾濫するというのは、脆弱に感じる。安心安全なまちづくりとして、本当に安心して住める、ある程度の防災、減災をした町でないと、いくら魅力があっても来てもらえない。

無駄な公共事業をどんどん作れとは言いつもりはないが、人口が少ないからという単純な費用対効果だけで、その地域に住んでいる人たちの安心安全な生活が侵されるなど、そういう基盤を失うといった危機感がある。

3年前に、就職を希望する生徒にアンケートを取ったところ、「今、浦河に仕事がないから、都会に出ざるを得ないが、将来、浦河に戻ってきたい」という子どもは、就職を希望する子の98%もいた。当時の校長先生も「こんなに郷土愛を持っている生徒が沢山いる学校は見たことがない」と驚いていた。

雇用のミスマッチを無くするためにも、事業者自らが学校に出向くなど、インターンシップ等で、地元就職したら、こういうような良いこともあるというような、インセンティブを与えとか、そういうことも考えていかないと、若者は流出していくと思う。

地元に残ってくれるのであれば、将来町を背負っていくような人材を育てなければならな

い。教育現場とは別の観点から、事業所も含めて社会で育てるといような、広い意味で考える必要がある。

【K委員】 観光の指標として「イベント参集人員」と「観光入込客数」、「宿泊客数」とあるが、通常、観光の評価という時に使われる指標だが、今、このような指標では、中々実態を掴めないと感じている。例えば、「宿泊客数」でいうと、工事関係の方が、かなり宿泊している状況もあるので、単純に「宿泊客数」が、イコール観光の指標になっているかというのは、違うと思う。

観光バスが何台も来て、バスから降りた人が街中を歩き回る。今はそういうことはないと思っている。もっと、滞在型とか、観光プログラムを利用させていただくといような、多様な観光客の方が増えている。そんな中、9月に浦河観光協会が一般社団法人化し、観光協会の活動強化の体制も整ってきた。

四町広域ということで、様似町、えりも町、広尾町との広域で、観光客をエリアで受け止めるような体制を作ろうという事業も動きはじめて、実績もでき、観光が少しずつ動き出ししているのは間違いない。

浦河町のファンの人が増え、訪れていただき、そしてお金を落としてもらいき、浦河の産業が回っていくということが、観光からのまちづくりということになると思う。

【L委員】 スポーツ振興からは、少子高齢化ということで、幼児から、お年寄りまで、元気に長生きをするという、健康増進というのが、スポーツの位置付けと思っている。浦河町には乗馬施設があり、前町長は5千人乗馬を推し進めて、一時5千人に達し、1万人になるよう継続していただきたいと思う。それが健康と精神的な増進になると考えている。

また、競技力向上については、浦河町出身の2名のオリンピック選手が出ており、やはり継続することによって、そういった子どもたちが出てくることを実感。浦河高校も馬術部が毎年、国体、それからインターハイに出ている。

ハードの面では、ファミリースポーツセンターが、耐震から言って、もう無理な状況だが、災害時には、本部を置くようなので、万が一あそこが潰れたらどうするのかということを考えなければならない。町単費では建てるのは無理だとわかっているが、総合的な防災センター兼体育センターの新築というのを、この機会に計画に盛り込んでいただきたい。

【M委員】 毎年2月に生涯学習フェスティバルとして、町民に向けて体験型等の機会を通して学習していただくことで、社会教育の普及を続けてきている。

また、総合学習の一環として、当時の浦河小学校の校長先生の意向もあり、華道、茶道を体験していただき、日本文化に親しんでもらい、自分の国を愛する心を育てていくということもやってきている。

文化芸術の振興について、以前は50の文化団体あったが、今は34団体に減って、人口減、高齢化もあり、文化協会でも若者をどう取り込むかが課題。

平成8年に建設された総合文化会館を、活動拠点とし、文化協会の事業や講演も、回数、参加人数ともに増加しており、町民の心休まる場として、その役割も担っていることと思う。「この町に住んでよかった」そう言える町にしたいと思って活動している。

【N委員】 消費者協会では、年2回、5月と10月に、一般の人に体験してもらうというような行事を開催。5月は農協に依頼し、いちごやアスパラ、お米を販売し、会員の作った野菜を売り、フリーマーケットを実施。10月にも農協に依頼して、お米やいちごなどを販売した。また、振興局にも依頼し、浦河産米のおにぎりの試食とアンケートを毎年やっているが、地元のものを知ってもらう、そして買ってもらうという活動をしている。浦河の特別栽培米を知らない人が結構いるので、必要な取り組みだと思っている。

道新に織り込みチラシを入れるなど宣伝しているが、消費者協会も若い人があまり入ってこない。どなたでも消費者協会には入れます。

【O委員】 Iターンの方が雇用に求めているものが、元々浦河に住んでいる人とズレがあると思う。Iターンの人は雇用の有無だけで判断するのではなく、自分の成長につながることや、やりたいことができると思った方が来ている。20～30代で自然に囲まれて田舎暮らし、仕事はほどほどみたいな人はそれほどいない。昔からずっと浦河で事業されている方でも面白い経営されている方や、青年団体での活動で新しい創意工夫を見出そうとしている方、そういったことがハローワークの求人票だけでは、給料と勤務時間だけで終わってしまうので、そういう魅力が見えないのはもったいない。

実際に私たちの団体で、5年前に「田舎で働き隊」という事業を行ったが、給料月額14万円で、社会保険、厚生年金一切なしで、6か月間の契約という形だったが、都会のスーパーの魚屋さんに勤めているけど、港に近いところで、魚に関わる仕事がしたいという人や、浦河で女性が経営しているカフェが多いので、私にもできないかという問合せが10名以上あった。浦河だったら、うちの会社だったら、こんな面白いことできるよということを、もう少し見せていけたらと思う。

また、都会で暮らしている方が浦河に移住するときに、お給料とアパートの相場を見て、単純に差引計算していくと、それでは暮らせないからといってやめてしまうということがある。浦河町でもシェアハウスとか、定住・移住がしやすい環境づくりはしているので、住宅もセットで紹介できるような情報を発信できると、少し機会を失わずに、よそから来てみたいという人が増えるのかと考えている。

【P委員】 小学生の子を持つ保護者として、一番気になっているところは、全国学力調査で、毎年北海道が全国でも下の方にあるが、その中でも日高はさらに一番低いこと。家庭でも学年×10分の家庭学習の定着も大事だが、先日は秋田県の大館市から来ていただいて講演を行ったり、今後ふるさと納税を使って全児童に間もなくタブレットが導入されるので、急に学力が上がることはないが、改善に期待している。

【Q委員】 以前、東町に住んでいた際、ふれあい会館で1泊の防災訓練というのがあった。妊婦でいるうちに経験できるのは、すごくありがたく、やってみて本当によかった。

観光については、引っ越してから浦河には何回か来ていたが、その時に泊まった宿が、ホームページで見たのと、だいぶ差があり、がっかりしたことがあった。もし初めて浦河に来た人が、そこに泊まったら、浦河の印象が悪くなると思うので、受け入れる体制を整備して欲しい。

ゴールデンウィーク中に、新聞を見ると広告が載っているが、浦河はあまり載っていない。

AERU という素敵な宿泊施設もあるし、美味しいものも沢山あるのに、PR 下手だなと思っていた。

浦河には、日高の中核の日赤があって、今は大きい市でも、産婦人科がなくなり、自分の住んでいる町で子どもが産めない状況がある中、浦河で子どもが産めるのは、ありがたい。また、産んだ後も、保健センターの事業がとても充実していて、雨の日でも子どもを遊ばせる場所があるのは、とてもすごいこと。文化会館と図書館が立派で、文化施設と医療はとても充実していると感じている。

浦小に乗馬とスケートの授業がないのは、すごく不公平。地域の特色なので、全部一律にしてほしい。タブレットももうすぐ入るが、それよりも体験授業や見学授業を増やすことにお金をかけて欲しい。

【会長】 事務局の方から出ている事業評価に載っていないものも、皆さんからの意見、本当に数多く出てきた。

問題点については、これからどう取り組むのか、逆に今まで浦河町独自の事業等、浦河の良いところを、いかに残していくのかということ、今後の会議の中で検討し、ただ意見を出しただけで終わらないように、これから事務局の方で、今日の皆さんの話を、もう一度整理して進めていきたいと思う。

8. 閉 会